

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年9月28日※1
(前回公表年月日:平成29年10月31日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校札幌マンガ・アニメ学院	平成19年11月13日	本間 剛宏	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-31 (電話) 011-272-2866																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	マンガデザイン学科マンガ専攻	平成25年文部科学省告示 代二号	-																							
学科の目的	マンガ家やマンガアシスタントを目指す専攻で、デッサン・パースなどの基礎から応用を学び、デビューを目指すカリキュラムに合わせ、ビジネスマナー・就職対策やコミュニケーション能力を高め、社会人としての基本と行動力を養う。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1,848時間	168時間	0時間	1,680時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人の内数	50人	1人	4人	6人	10人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 五段階評価ABCDE(E=未習得)																							
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで		卒業・進級条件	進級:出席率90%以上、単位習得85%以上、進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上、単位習得85%以上、卒業制作審査合格、学費の完納																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う。長期欠席者への指導等の対応、定期的な郵送による保護者連絡(年4回予定)		課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) デザイン会社、インターネットコンテンツ関連、他 ■就職指導内容 就職対策授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業者数 24 人 ■就職希望者数 7 人 ■就職者数 6 人 ■就職率 : 86 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 25 % ■その他 漫画家デビューになることを目的とした専攻になります。 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>ビジネス能力検定</td><td>③</td><td>11</td><td>9</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③	11	9												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
ビジネス能力検定	③	11	9																								
中途退学の現状	■中途退学者 5 名 平成29年5月1日時点において、在学者53名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者48名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 主に経済的な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 授業料の分納制度等		■中退率 9 %																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										

第三者による 学校評価	■ 民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)
当該学科の ホームページ URL	https://www.smg.ac.jp/td/manga/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

マンガデザイン学科

1、社会人としてのマナー・行動 2、作品発表・デビューに向けた作品制作 3、作品制作に向けた打ち合わせ及びスケジュール管理

4、現在の流行及びターゲットの好みの研究 5、広い視野の育成

上記の教育内容をプロ(企業等)との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、プロ(企業等)の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会では以下の事項を審議する。

1、カリキュラムの編成と実施に関すること。

2、年間授業計画と週の授業時間の編成に関すること。

3、教材の見直し、新しい教材の選定に関すること。

編成委員会の審議内容を基に学科長が中心となって、2年間のカリキュラムの見直しをして、次年度のカリキュラムへ反映していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
石川 寿彦	公益社団法人日本漫画家協会北海道ブロック長	平成30年8月1日～平成31年3月31日 1年更新	①
山口 哲志	ドラマチッククリエイション&エンターテイメント企画 代表	平成30年8月9日～平成31年3月31日 1年更新	③
本間 剛宏	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 名誉学校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	
吉留 博之	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	
山田 淳一	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年会開催数:年2回 開催時期:毎年 9月、1月

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 13:00～13:30

第2回 平成26年2月6日 16:00～16:30

第3回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第4回 平成27年3月29日 15:30～16:30

第5回 平成27年12月18日 15:00～16:00

第6回 平成28年5月27日 12:00～13:00

第7回 平成28年12月16日12:35～12:55

第8回 平成29年5月25日19:00～19:30

第9回 平成30年1月24日12:00～13:00

第10回 平成30年9月25日13:30～15:00

第11回 平成31年1月開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

会議内で、現在のカリキュラムから吟味し問題点を出し、改善策を検討します。

描写能力のレベル差を少なくするための改善策として、能力に合わせ同じ課題の内容であっても、各々の到達地点を決め実施。

進級率の改善策として、課題の選択が出来るようにして早い段階で、制作

方針を決め、能力に合わせた取り組みを実施。発表の場を増やすための改善策として、本校で行われる添削会のビッグエッグスの改善、昨年よりも編集部参加を増やし、更にビッグエッグス以外の各編集社の添削会を実施。

新しいマンガ業界の動向を知るため改善策として、業界に関わるセミナーを東京などの業界で活躍している講師を招いて実施。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携で課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業で連携している先生と年に3回行われている講師会で、カリキュラムと課題内容を検討し、現場で行っている新しい情報や新しいソフトの使い方などを入れ込んだ課題を通して実施。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする。	アニメーター・デザイナー 中村 義則
キャラクターデザイン	キャラクターの描き方や人体の基本、カラー画材を使用した、カラーイラストの制作実習	マンガ家 影井 春香
卒業制作	2年間の集大成として、そして対外的なプレゼンテーションとしての意味を持つ作品制作の実習	マンガ家 影井 春香

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校内外で必要な研修機会を設けるものとする。

・専攻関連分野の業界企業等による各種セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の修得および向上を計画的に努める。

・学生に対する指導力向上のため、各種業界団体・職能団体等の指導研修に参加する機会を確保する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・ジエングルによる講義「ポートフォリオセミナー」 H29.11月
- ・企画集団トモ 代表による講義「原作者から見たマンガ家とは」 H29.7月、10月
- ・編集企画総合プロデューサーによる講義「マンガ編集者から見たマンガ家とは」 H29.7月
- ・作家による特別講義「マンガをつくって行く上での基礎知識」「現代マンガの傾向をつかむ」 H29.10月、H30.1月

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年3回) H29.7月、12月、H30.1月
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る H29.5月
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る H29.5月

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・企画集団トモ 代表による講義
- ・マンガ家による講義
- ・XFLAGによる講演「マンガ・サービスについて」

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年2回)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくこと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする。
・各学校の特徴を一般の人が理解しやすいパンフレット作り、特に表紙と導入ページで各学校の特徴が分かり、学科・専攻の特徴が分かり易くデザインすることが大事。学生にアピールするものや父母にアピールできる2つの要素を考えるべき。
・マンガデザイン学科の進級率の改善は、早めの対応で各々の能力に合わせたカリキュラムの設定。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社さした Studio BACU CGIデザイナー	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
原 大介	ユアンワークス 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員 卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:平成30年11月中)

<https://www.smg.ac.jp/td/wp-content/uploads/2017/09/hyoka.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページによる情報提供 <https://www.smg.ac.jp/td/information/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (マンガ専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	言葉や文章によるバーバルコミュニケーションと視覚で伝達するビジュアルコミュニケーションの有り方の違い等、視覚を主とする伝達の方法論を学ぶ。	1前	34	2	○			○		○		
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1前	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるようにデザイン基礎を学習する。	1前	68	4			○	○		○		
○			デッサン	物・形・素材を観察し、また、空間の構成を把握し、表現する技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○			○	
○			プレゼンテックⅠ	線画表現に必要な道具の基本的な使用方法と技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○		
○			パースⅠ	空間処理のひとつの方法である遠近法(パース)の基本を学ぶ。	1前	34	2			○	○			○	
○			表現技法Ⅰ	線画表現に必要な空間処理(パース・効果線等)の基本技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○		
○			表現技法Ⅱ	パソコンの基本を学習し、アドビ・イラストレーター・フォトショップのソフトの使用方法を学ぶ。	1前	34	2			○	○			○	
○			ビジュアル表現Ⅰ	モノ創りの基本となる発想力、構成力、演出力等を作品作りを行ないながら学ぶ。	1前	34	2			○	○		○		
	○		専攻テクニックⅠ	マンガの基礎を元に、総合的かつ、個性的な作品制作の実習。	1前	34	2			○	○		○	○	
	○		専攻テクニックⅡ	マンガにおける表現の知識、スキルをいかし説得力のある作品制作を目指す。	1前	34	2			○	○		○	○	
	○		専攻制作Ⅰ	ページ作品を制作し、テーマに沿ったストーリー制作を数多く作成することにより、マンガ制作の実作業を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	○	
	○		専攻制作Ⅱ	制作を通して作品の世界観を広げると共に、道具のルールと表現効果を実作業を通して学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	○	
合計				13科目	476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90%	単位修得率85%	卒業制作審査合格	学費の完納	1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (マンガ専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			色彩構成	色彩に関する基本的な知識から、色彩の歴史、その配色の基本的な考え方を学ぶ。	1後	16	1	○			○			○	
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1後	16	1	○			○			○	
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるようにデザイン基礎を学習する。	1後	48	3			○	○			○	
○			デッサン	物・形・素材を観察し、また、空間の構成を把握し、表現する技術を学ぶ。	1後	32	2			○	○				○
○			プレゼンテクニックⅠ	線画表現に必要な道具の基本的な使用方法と技術を学ぶ。	1後	16	1			○	○				○
○			パースⅠ	空間処理のひとつの方法である遠近法(パース)の基本を学ぶ。	1後	32	2			○	○				○
○			表現技法Ⅰ	線画表現に必要な空間処理(パース・効果線等)の基本技術を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○	
○			表現技法Ⅱ	パソコンの基本を学習し、アドビ・イラストレーター・フォトショップのソフトの使用方法を学ぶ。	1後	32	2			○	○				○
○			ビジュアル表現Ⅰ	モノ創りの基本となる発想力、構成力、演出力等を作品作りを行ないながら学ぶ。	1後	32	2			○	○			○	
○			進級制作	1年間の集大成という意味と、1年間のスキル修得のチェックポイントとしての意味を持つ、各科目の制作実習。	1後	64	4			○	○			○	○
	○		専攻テクニックⅠ	マンガの基礎を元に、総合的かつ、個性的な作品制作の実習。	1後	32	2			○	○			○	○
	○		専攻テクニックⅡ	マンガにおける表現の知識、スキルをいかし説得力のある作品制作を目指す。	1後	32	2			○				○	○
	○		専攻制作Ⅰ	ページ作品を制作し、テーマに沿ったストーリー制作を数多く作成することにより、マンガ制作の実作業を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○	○
	○		専攻制作Ⅱ	制作を通して作品の世界観を広げると共に、道具のルールと表現効果を実作業を通して学ぶ。	1後	32	2			○	○			○	○
合計					14科目		448単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (マンガ専攻) 平成30年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする	2前	34	2	○		△	○		○	○
○			就職対策	就職に向けての企業訪問、説明会・応募・受験・面接など就職活動を実践する。就職活動用の個人作品ファイルも併せて制作する。	2前	34	2	○			○		○	
○			ビジュアル表現Ⅱ	業界で必要とされるデザインワークから、幅広い表現を学び、作品制作にいかす。	2前	34	2			○	○			○
○			デッサン	デザインするために必要な描写力を反復練習で習得し、幅広い表現ができるように学習。	2前	34	2			○	○			○
○			プレゼンテクニックⅡ	デザインワークにおける、パソコンの基礎と応用を学習し、イラストレーター、フォトショップを使用し、様々なデザイン成果品を制作、学習してゆく。	2前	34	2			○	○			○
○			プレゼンテクニックⅢ	マンガ、イラストの総合的な創作作法実習をおこなう。	2前	34	2			○	○			○
○			パースⅡ	遠近法(パース)の表現・演出方法の応用と幅広い表現方法の習得。	2前	34	2			○	○			○
○			キャラクターデザイン	キャラクターの描き方や人体の基本、カラー画材を使用した、カラーイラストの制作実習。	2前	34	2			○	○			○
	○		専攻テクニックⅢ	コマ割り表現に必要な説得力のある空間処理方法や表現方法の制作実習。	2前	34	2			○	○			○
	○		専攻テクニックⅣ	マンガ表現の総合的な仕上げ、テクニックの応用を作品制作を通し学ぶ。	2前	34	2			○	○			○
	○		専攻制作Ⅲ	1年次で学んだ専攻の基礎を応用し、説得力のある作品づくりを目指すと共に、様々な表現方法を学び投稿を行う。	2前	68	4			○	○			○
	○		専攻制作Ⅳ	マンガの投稿、持ちこみを前提とした、プロット、ストーリー、キャラクター等の創作作法実習。	2前	68	4			○	○			○
合計				12科目						476単位時間			(28単位)	

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (マンガ専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作	2年間の集大成として、そして対外的なプレゼンテーションとしての意味を持つ作品制作の実習。	2後	448	28		△	○	○		○	○	○
合計					1科目	448単位時間 (28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。